

## 2026年度入試 文学研究科

### 解答又は解答例及び出題意図

課程	博士課程前期
実施期	Ⅱ期
科目名	日本史学
	解答又は解答例 及び出題意図
〔Ⅰ〕	<p>1 群集墳</p> <p>〔解答又は解答例〕</p> <p>同時期の古墳が単一地域内に密集している古墳群のことを言う。古墳時代後期に各地で多数築造された。とくに丘陵・台地上・山腹などに築かれ、数百基を数える場合もあった。これは家父長制家族の台頭による造墓階層の拡大が要因と考えられている。群集墳を構成する古墳はほとんどが小型の円墳で、横穴式石室を持つものが多い。それらはいくつかの群に分けられ、場合によってはさらに小群に分けられる。副葬品は土器・耳環・直刀・鉄鏃・玉類などが見られる。和歌山県岩橋千塚古墳群、奈良県新沢千塚古墳群などが有名である。横穴墓も群集墳の一種とするのが一般的である。</p> <p>〔出題意図〕</p> <p>古墳時代に関する基本的な知識を問うた。</p>
	<p>2 平安京</p> <p>〔解答又は解答例〕</p> <p>延暦13年(794)、桓武天皇によって定められた都である。形式的には、明治初年まで日本の首都としての機能を果たした。山城国葛野郡と愛宕郡にまたがり、現在の京都市の中心部を占めた。規模は東西約4.5km、南北約5.2kmで、長方形の京域を設定し、中央北端に大内裏を、中心に朱雀大路を設けている。こうした構造は基本的に平城京をはじめとする前代の都城のそれを踏襲したが、平安京では宮城内の内裏と大極殿・朝堂院を明確に分離し、豊楽院を造営するなどの独自性も見られる。律令国家体制の崩壊とともに衰退し、10世紀後半にはとくに右京の荒廃と左京北部への住居の密集が顕著になり、居住域は京の範囲をこえて鴨川東岸へ広がっていった。</p> <p>〔出題意図〕</p>

平安時代に関する基本的な知識を問うた。

### 3 執権

〔解答又は解答例〕

鎌倉幕府の職名の一つである。将軍の後見役を兼ね、軍事・司法・政務などの幕政全体を総攬した。大江広元を初代執権とする説もあるが、正式には建仁3年(1203)に北条時政が将軍源頼家を廃して実朝を立てた際に政所別当となり、執権となったのを初例とするのが一般的である。建保元年(1213)、北条義時は和田義盛を滅ぼして侍所と政所の別当を兼任して幕政の最高権力者となり、これ以後は北条氏が独占的に執権の地位を世襲した。執権はその補佐官たる連署とともに幕政を統轄し、幕府の主要な公文書はこの両者の名前によって発行された。

〔出題意図〕

鎌倉時代に関する基本的な知識を問うた。

### 4 刀狩令

〔解答又は解答例〕

刀狩令は、近世における身分制度の先駆けとして重要であるが、同時に大きくは日本史全体の転換点としても位置付けられて然るべきものである。この問題の解答としては、刀狩令の内容と後世への影響を分かり易く叙述することが最も大切であるが、前者についてはその条文のうちいくつかの内容を、後者については豊臣秀吉による実施の具体例の説明に加えて、その後展開された江戸幕府が構築した身分制度の内容をできる限り具体的に述べる事が望まれる。

〔出題意図〕

近世幕藩国家の基盤についての基本的な知識を問うた。

### 5 鎖国

〔解答又は解答例〕

鎖国については、かつて教育の現場にあっても海禁との語に置き換えられていた時期もあった。この度の入学試験においては、このうちいずれの語を念頭に置いた解答であっても良いこととした。

鎖国について語るに際しての重要な項目は、キリスト教の禁止と貿易の統制が目的であ

	<p>ることと、そのための政策として日本人の海外渡航と外国人の来航の制限があることであるが、これらについて満遍なく答えられていればそれが最も望ましいがで、これに加えて具体的な例が示されていればなお充分である。さらに、江戸時代後期に至って、徐々にではあっても外圧を原因としてこれらの体制が崩れている様子が説明されていることもまた重要である。</p> <p>〔出題意図〕</p> <p>近世幕藩国家の基盤についての基本的な知識を問うた。</p> <p>6 戊辰戦争</p> <p>〔解答又は解答例〕</p> <p>〔出題意図〕</p>
〔Ⅱ〕	<p>1 壬申の乱について論述しなさい。</p> <p>〔解答又は解答例〕</p> <p>天智天皇が崩御した後、天武元年（672・壬申年）に皇位継承をめぐる皇族・豪族たちがそれぞれ二派に分かれて争った内乱を言う。乙巳の変を成功させた中大兄皇子は、天智7年（668）に即位して天智天皇となり、中央集権化と人民の直接支配を推し進めた。当初は天皇の実弟である大海人皇子がこれを補佐したが、しだいに天智天皇は子の大友皇子を後継者に望むようになったため、大海人皇子との間に不和が生じた。天智10年（671）正月、天智天皇は大友皇子を太政大臣に任命し、蘇我赤兄と中臣金を左右大臣に任じた。同年10月、大海人皇子は病床の天智天皇から後事を託されたが、これを拒否して東宮を辞し、出家・剃髪してただちに吉野へ退いた。これは皇位に執着しているとの嫌疑をかけられないためであったと考えられる。同年12月に天智天皇が崩御すると、大海人皇子は翌年6月に挙兵し、吉野を出発して東国に向かった。大海人皇子は積殖山口で高市皇子と合流し、不破・鈴鹿の両関を閉塞した。さらに尾張国司らが帰参するとともに、大伴吹負をはじめとする大和国の豪族層も味方についたことで、戦況は大海人皇子側に有利に展開した。近江朝廷側は攻勢に出るがしだいに圧倒され、7月には近江大津宮が陥落し、大友皇子は自害した。戦いに勝利した大海人皇子は、天武2年（673）に即位して天武天皇となった。</p> <p>〔出題意図〕</p>

設問Ⅱにあつては、設問Ⅰとは異なって「論述」が求められているので、Ⅰで求められていた単なる「説明」ではない回答が求められていることに受験者は気が付かなければならない。そのことをより充足させた回答が望ましいのは当然のことである。

2 江戸時代の朝幕関係について論述しなさい。

〔解答又は解答例〕

江戸時代における朝幕関係については論述するためには、各個の事柄に関する動向を具体的に述べるのが肝要である。大きくみれば織田豊臣政権の、さらには徳川政権の具体相、そしてその後者としての徳川政権の各将軍における具体的な政策等々である。なお朝幕関係そのものにさらに具体的に注視すれば、その例として禁中並公家諸法度・紫衣事件・尊号一件等が挙げられよう。これらの事柄を時代順によく叙述しつつ、幕末期に至る経過を述べつつ、自らによる議論に説得力ある文章を述べるのが望まれる。

〔出題意図〕

設問Ⅱにあつては、設問Ⅰとは異なって「論述」が求められているので、Ⅰで求められていた単なる「説明」ではない回答が求められていることに受験者は気が付かなければならない。そのことをより充足させた回答が望ましいのは当然のことである。

3 四民平等について論述しなさい。

〔解答又は解答例〕

四民平等について論じる際、その前提となる近世における身分制度の根幹である士農工商から述べるのが肝要と思われるが、この頃では通史を論じるに当たってあるいは教育の現場にあって必ずしも士農工商との文言が取り上げられないこともあるので、本問題の解答にこれが無くても可とする。

その上で、近世における各身分の内容とそこにあるさまざまな事柄についてよく述べると同時に、天皇・朝廷と将軍・幕府がどのように身分的に位置付けられるのか、あるいは士農工商よりも下層として位置付けられた人びとについても、歴史的事実をよく述べるのが期待される。そして真に求められるのは、受験者自身による議論である。今なお残る差別についても、そこに顕れる矛盾についてまでもよく述べられていればなお良い。

〔出題意図〕

設問Ⅱにあつては、設問Ⅰとは異なって「論述」が求められているので、Ⅰで求められていた単なる「説明」ではない回答が求められていることに受験者は気が付かなければな

らない。そのことをより充足させた回答が望ましいのは当然のことである。